



芦屋の歴史とともに歩んだ開森橋が 新しくなりました。

新しい開森橋は、昨年11月に渡り初めを行い供用を開始しました。
道路切り替え後も、バス停等の周辺整備工事を行います。
引き続き、ご不便・ご迷惑をお掛けしますが、ご協力よろしくお願ひします。

新しくなった開森橋のこだわりポイント

芦屋川沿いの景観との調和 を目指したデザイン

旧開森橋の親柱の意匠や、欄干のロマネスク調のアーチ付き連続開口を有した重厚なイメージを引き継ぎました。地域のシンボリック的存在であるフランク・ロイド・ライト設計のヨドコウ迎賓館(旧山邑邸)の淡い黄色や彫刻模様を取り入れたデザインになっています。使用した石材は、兵庫県高砂市付近で採掘された黄竜石と呼ばれる凝灰岩を使用し、蓄光型LEDライトを埋め込み、夜間景観の演出も図っています。



道路課 山本剛史



欄干は、ヨドコウ迎賓館と色を合わせた淡い黄色の黄竜石が使われ、周囲の景観にも配慮しています。

安全で快適な通行空間

以前は大型車両が対向車線にはみ出すことがあり、南側歩道も2mに満たないものでしたが、道幅を15mに広げたことにより、大型車両も余裕をもって走行でき歩道も約3mに広げることができました。

開森橋バス停も交差点内にあったため停留所に沿って停車できませんでしたが、周辺整備工事により、より安全に停めることができるようになります。

バス停周辺には、ベンチを設置し、憩いの空間としてもご利用いただけます。



道路課 西村 仁

安全性・耐震性の向上



道路課 小栗隆弘

昭和13年の阪神大水害時には開森橋付近で堤防が決壊し土石流により、周辺は大きな被害を受けました。

旧開森橋に2本あった河川内の橋脚をなくし、土砂災害に強い橋になりました。

また、耐震性を持たせることで地震にも強い橋に生まれ変わりました。

架け替え工事のながれ



旧開森橋の南側に仮橋を建設中 (平成27年2月)



仮橋建設後、旧開森橋を取り壊し (平成28年3月)



新しい開森橋を建設中 (平成28年9月)

開森橋

いま・むかし

開森橋は、阪急芦屋川駅の北、芦屋川と高座川の合流地点付近にある橋で明治17年刊行の「芦屋村誌」にも記されており、芦屋川に架かる橋としては古いものです。開森橋の名称は、旧小字の名前から付けられたと考えられおり、「開森」とは、新しい土地を開拓するという意味がありました。

当初は、木造の橋で大正時代には、芦屋川の改修に伴って架け替えられたり、風水害で破損した部分を修繕したりされました。昭和初期には、2対8個の擬宝珠が欄干に飾られていました。その後、モダンな照明が4カ所についていた石造りの欄干が造られましたが、昭和13年の阪神大水害で大きな被害を受けました。

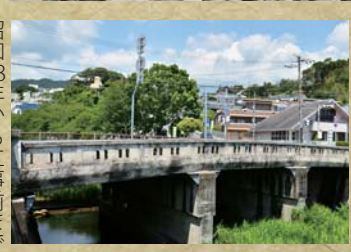


昭和初期の開森橋

昭和28年に架け直されましたが、経年劣化・老朽化等が進んだため、60数年ぶりに架け替え工事が行われました。昨年11月に新しい橋が完成し、渡り初め式が行われました。



戦前の開森橋



昭和28年から工事前までの旧開森橋